

## 第2回庄川流域懇談会 議事要旨

開催日時：平成 19 年 7 月 27 日（金）14:00～16:00

場 所：高岡平安閣 4F「平安の間」

議事次第：1. 開会

2. 挨拶

3. 出席者の紹介

4. 議事

①庄川水系河川整備基本方針について

②庄川の現状と課題と目標について

5. 閉会

### 【主な意見】

#### 【基本方針について】

##### （委員A）

- 霞堤のあるところでは、空き地のようになったり道路でふさがれていたりしている箇所もあるが、現在も霞堤が機能しているのか。河床が下がっているときに（堤内地と堤外地の）すり付きは（問題がなく）うまく機能しているのか？上流部の破堤では、道路があるので氾濫水が霞堤からうまく川に戻るのか。黒部川での S44 年洪水では、国道 8 号があったため入善まで氾濫水が流れてきた。

##### （事務局）

- 現状は押さえているが、個別の評価資料が手元にないため、次回提示する。

##### （委員B）

- サクラマスは瀬で産卵するが、遡上後に生息するのは主に淵なので、別紙の「正常流量の説明」の瀬だけに着目しているかのような記述は誤解を与える。庄川は、淵が少ないので瀬・淵のバランスがあまり良くない川である。

##### （事務局）

- 淵は、水深が確保されているため、渇水時により厳しい瀬で評価しているが、一般に誤解を与えにくいような記述に変更する。

(委員C)

- 昔は合口ダムで（下流への正常流量の放流は） $8.35\text{m}^3/\text{s}$  でよかったが、工業用水等の取水や地下への浸透等があり、水が無くなることもある。現状に合わせて見直して欲しい。アユやサクラマス等の魚類の生息も考慮すべきと思う。

(座長)

- 先ほどの説明にもあったように、灌漑期は  $8.35\text{ m}^3/\text{s}$  と色々な要請から決まっているようである。

【現状・課題と整備計画の目標について】

(委員D)

- 安全性は第一だと思う。左右岸に近い場所の井戸水は、ほとんどが庄川から伏設する水である。治水の築堤をオーバースペックで固めすぎると、地下水や周辺の水利用に影響が出るかもしれないので注意していく必要がある。治水上の100年の安全性と周辺住民の生活を考えた現状の地下水利用とのバランスを考える必要がある。

(座長)

- 説明資料では、水田からの涵養が多いとあった。

(事務局)

- これまでの調査では、地下水に対しては河床高の影響が大きいようであり、河床高を維持する現状の計画では、大きな影響は無いのではないかと考えている。

(委員E)

- 川の器（流下能力）をみるときに、外水位の潮位をどのように考えて、河口の出発水位を決めているのか？

(委員F)

- 何年か前に高潮による浸水が生じた。

(委員E)

- 不等流計算なので出発水位は大切

(座長)

- 高潮区間は河口部から上流側に何 km か。

(事務局)

- 出発水位について具体的な数字を整理して、次回提示する。

(委員A)

- 富山県内で一番贅沢な環境は河川空間である。しかし、定期的に草刈等の維持管理をしっかりといても、利用が少ない。イベント等の非日常的利用は行われているが、それだけではあまり発展性（持続性）がないので、それらを通じて日常的に川を利用できるような整備やPRを行う必要があるのかもしれない。また、アユのつかみ取りとコイ等の稚魚・ホタル・カワナ等の放流は、河川環境面・教育面では、相容れにくいことを実施している。これまでに実施してきた経緯もありやむを得ないところもあると思うが、岐阜県に協賛を依頼した際に、協賛とならなかったこともある。魚を追いかけて捕まえる遊びと、命の大切さを教えること等、将来的にはイベントの意味合いをよく考える必要がある。

(事務局)

- 河川環境のすばらしい自然を当たり前と思う傾向が強い。しっかりPRし、地元の人の理解を得るのが重要と考える。
- 魚のつかみ取りについて、一律に我々がどうこう言う事は非常に難しい。

(委員F)

- 水辺の楽校の資料で、浅井小学校が記載されているが、H18.3 に閉校しているので修正をお願いしたい。
- 学校活動だけでなく公民館活動等、休日や放課後を含めて活動ができる施設が近くにあるとよい。整備しても子供達が利用しないと役立たないので、自然環境と水と親しむ活動等を普及、発展させる環境作りが必要である。川の内と外での連携を包括的に進めて行くことで、自治体との連携にもつながるものと思う。

(座長)

- 水害記念碑や松川除など川に関係したものの周辺に施設をつくって一般の用に供することは可能ではないか。また、地域と連携することで流域の住民の希望にも沿うことができるのではないか。

(委員G)

- 治水の歴史の中でも『松川除』は大きな意味を持っていると思う。大事にしたい。松川除を市の指定にしたい。
- 庄川の源流は「烏帽子岳」となっているが、旧荘川村の村長から、山中山の峠の上流にある湿原が源流と聞いたことがある。国土地理院の地図でも山中山から流れ出る川に「庄川」と書いてある。「烏帽子岳」の記述を消すということではなく、併記するなど配慮できると良い。

（座長）

- 「計画対象区間と期間」は、区間だけではなく氾濫区域、または影響のある地域や庄川の水の恩恵といった観点も加えると、問題意識や意味合いが深まりよいと思う。対象区間で、「流域及び氾濫域を対象にする」、さらに庄川の水の恩恵がおよぶ地域を対象として考えるということを記述したほうが良い。
- 「計画流量に対する整備の状況」に加え、整備計画の目標値である戦後最大洪水  $4,200\text{m}^3/\text{s}$  に対して満足しているかどうかの評価も入れたらどうか。
- 「霞堤の現状・整理」に、減災への取り組みとしてどう位置づけ、整合させるかを考えて記述すると良い。閉じている霞堤は従来型の霞堤と異なっているため、そのことを項目としてうたっておくのがいいのではないか。
- 「利賀ダムの整備」にある概ね  $8.4\text{m}^3/\text{s}$  の確保は通年か？文章の補足が必要である。

（委員C）

- 昔から合ロダムから  $8.35\text{m}^3/\text{s}$  の放流があったが、さらに増えるのか？

（事務局）

- 概ね  $8.4\text{m}^3/\text{s}$  とは、正確には  $8.35\text{m}^3/\text{s}$  であるが、非灌漑期には流入量により、合ロダムからの放流量が決まっている（ $8.35\text{m}^3/\text{s}$  を下回ることもある）ので、その不足する分を利賀ダムにより安定的に確保するということである。計画では 1/10 渇水を対象としている。合ロダムからの放流の義務付けは、かんがい期における値であり、非かんがい期においては、流入してくるものを基準に考えている。

（座長）

- 湧出箇所の保全を考えていけば井戸水への心配はおこらないのではないかなと思う。

（委員E）

- 遡上するサケのメスは、河床から湧水がある環境に産卵するため、安定して水が湧いているところを探す。以前は 9 月から 11 月の間に雑草駆除のため水田に水を流していた。しかし、近年ではそれを行っていないため地下水が減少し伏流水も減少しているのではないか。現在は、サケの産卵も上流に行かなければできないという現象も踏まえて、 $8.35\text{m}^3/\text{s}$  という流量が足りているのか考えて欲しい。

（委員 B）

- 人工的につくった淵は管理が難しいので、自然にできた淵を残す方が現実的だと思う。正常流量についてよくわからないが、利賀ダムの  $8.35\text{m}^3/\text{s}$  は上乘せでなく穴埋めか？工業用水はどこから持っていくのか。別ルートか？

（事務局）

- $8.35\text{m}^3/\text{s}$  は、灌漑期にのみ合口ダムから流しており、非灌漑期にも安定して  $8.35\text{m}^3/\text{s}$  流せるように、利賀ダムで確保することとしている。工業用水の取水地点は定まっていないが、合口ダムではないかと思う。 $+0.1\text{m}^3/\text{s}$  の流量増分は、合口ダムから下流には流れない。

－ 以 上 －